

核都市広域幹線道路(埼玉新都心線～東北道付近) の概略ルート、構造の検討状況について

令和5年3月10日

大宮国道事務所

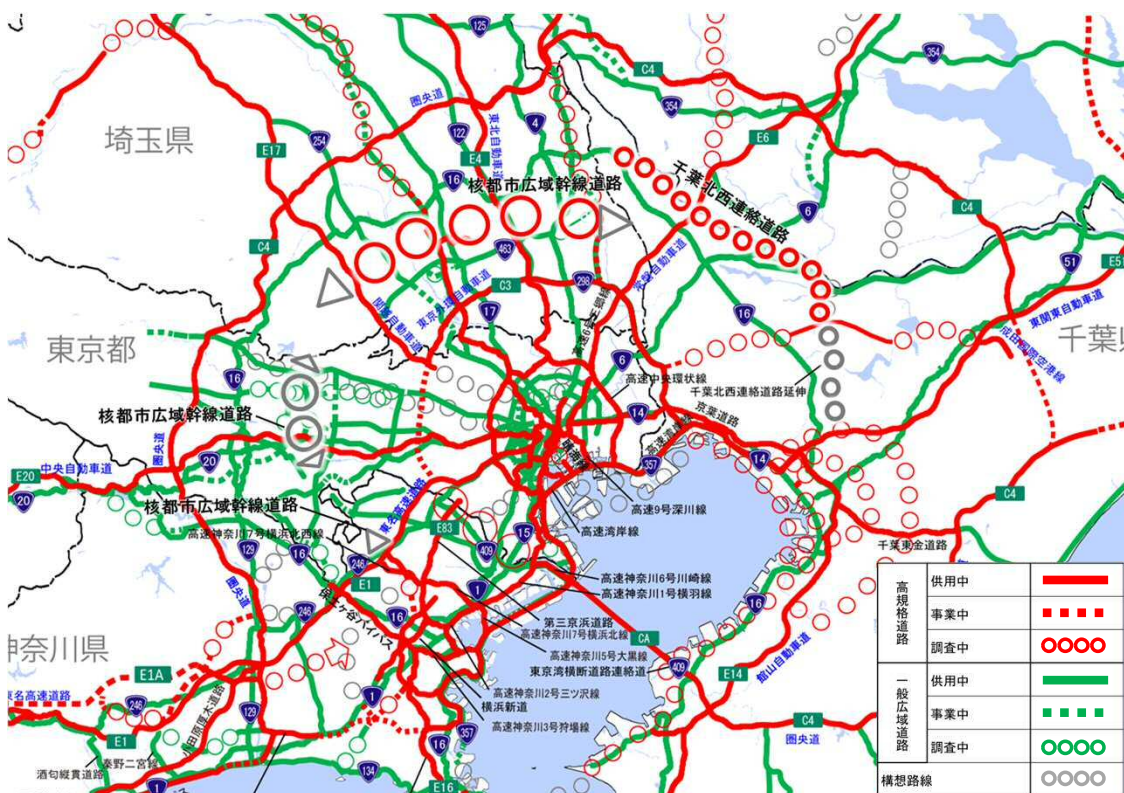
1. 核都市広域幹線道路(埼玉新都心線～東北道付近)の概要	2
2. 核都市広域幹線道路(埼玉新都心線～東北道付近)の検討経緯	3
3. 核都市広域幹線道路(埼玉新都心線～東北道付近)検討会の体制	4
4. 核都市広域幹線道路(埼玉新都心線～東北道付近)検討会の実施状況	5
5. 核都市広域幹線道路(埼玉新都心線～東北道付近)周辺地域の課題	6
6. 核都市広域幹線道路(埼玉新都心線～東北道付近)今後の進め方	13
7. パネル展の開催状況	14

1. 核都市広域幹線道路(埼玉新都心線～東北道付近)の概要

2

- 核都市広域幹線道路は、圏央道と東京外環道の間に並行するように位置し、神奈川、東京、埼玉、千葉を相互に連絡し、これらの交流・連携を促進する広域道路ネットワークを形成する道路として計画。
- 外環道(三郷南～高谷)開通後の交通状況変化等に対応し、埼玉県南部における慢性的な混雑を改善し、物流施設の立地や人口集積が進む圏央道と外環道間の東西方向の連携を強化する観点から、埼玉新都心線～東北道付近間が本検討の対象区間。

■計画の概要



出典: 関東ブロック新広域道路交通計画より加工
(令和3年7月、国土交通省関東地方整備局)

■検討区間の概要



求められるサービスレベル

○多車線の自動車専用道路

配慮事項

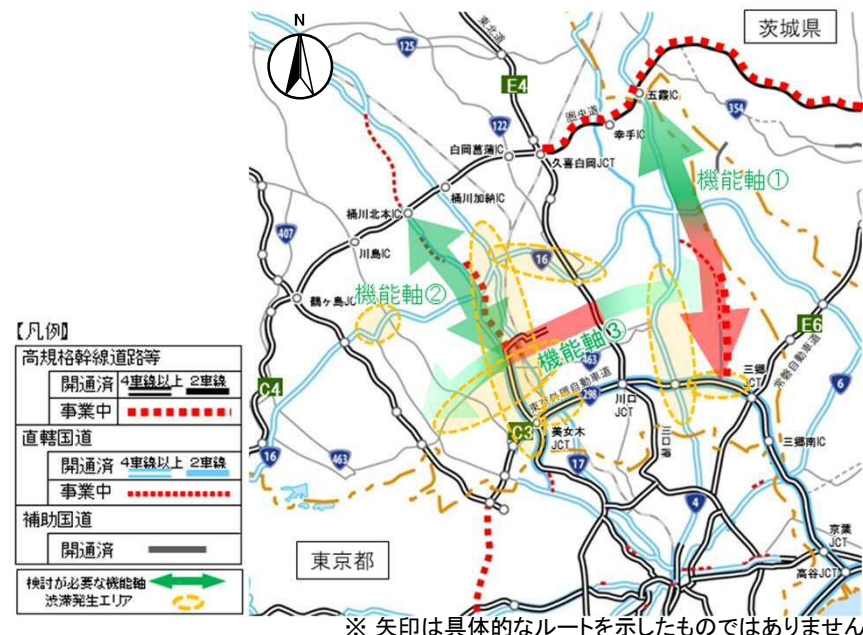
○見沼田圃を始め地域の生活環境、自然環境、歴史・文化資源等に配慮

2. 核都市広域幹線道路(埼玉新都心線～東北道付近)の検討経緯

■令和2年3月 第3回埼玉県渋滞ボトルネック検討WG

- 機能軸①②③について、圏央道以南地域のポテンシャルを十分に発揮させるため、現在の都市計画や事業中箇所の進捗状況を踏まえながら、規格の高い道路ネットワークの計画の具体化に向け検討を実施。
- 機能軸③について、外環道(三郷南～高谷)開通後の交通状況の変化等に対応するため、**埼玉新都心線～東北道付近を始めとして東西軸の効果的な対策等の検討を進める。**

※機能軸③の埼玉新都心線～東北道付近を始めとして東西軸については、**詳細な検討を進める場を設けて、効果的な対策等の検討を進める。**



■令和3年12月10日 第1回埼玉県東西軸道路検討会

【優先検討区間】

- 埼玉新都心線～東北道付近間を優先し、概略計画の検討(計画段階評価)を進める。

【求められるサービスレベル】

- 多車線の自動車専用道路

【概ねの起終点(優先検討区間)】

- 起点はさいたま見沼IC、終点は東北道(浦和IC～岩槻IC間)付近とする。

【配慮事項等】

- 見沼田圃を始め生活環境、自然環境、歴史・文化資源等に配慮する。
- このためさいたま市が中心となり、国や埼玉県とも連携し、道路の必要性等について地域住民の理解を得られるよう、積極的に取り組む。

■令和5年1月16日 第1回核都市広域幹線道路(埼玉新都心線～東北道付近)地元検討会

- 埼玉県圏央道以南地域の交通特性、交通課題
- 核都市広域幹線道路(埼玉新都心線～東北道付近)に求められる機能

- 地域への情報発信と意見聴取
- 構想段階の進め方(案)

3. 核都市広域幹線道路(埼玉新都心線～東北道付近)検討会の体制

4

○核都市広域幹線道路(埼玉新都心線～東北道付近)地元検討会(以下、地元検討会という)は、以下の有識者と地元行政関係者で構成。

核都市広域幹線道路(埼玉新都心線～東北道付近)地元検討会 委員名簿

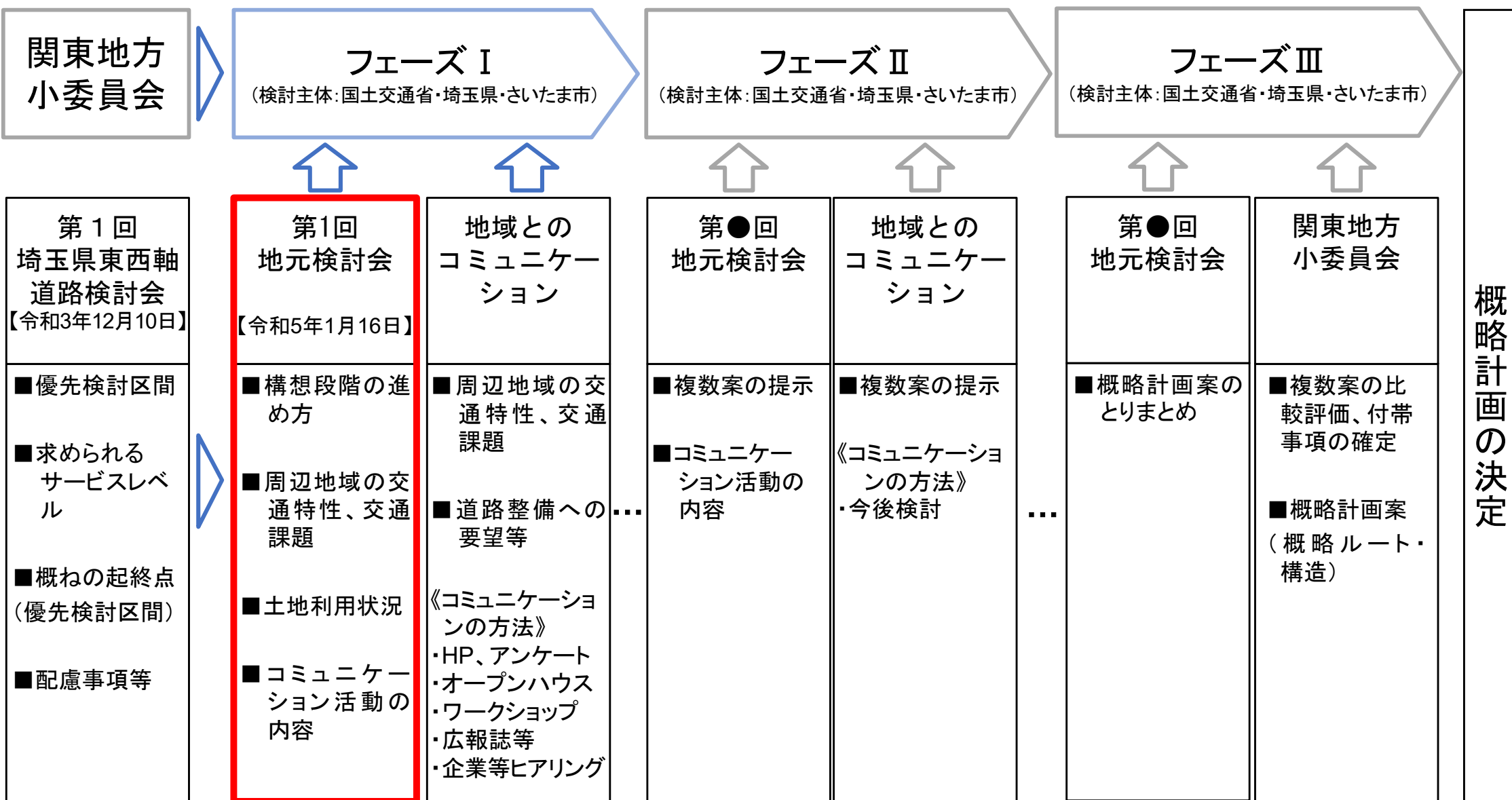
令和5年1月16日 現在

委員	所属	備考
くぼた ひさし 久保田 尚	埼玉大学大学院 理工学研究科 環境科学・社会基盤部門 教授	
ひはら ゆかこ 日原 由香子	埼玉大学大学院 理工学研究科 生命科学部門 教授	
ふかほり きよたか 深堀 清隆	埼玉大学大学院 理工学研究科 環境科学・社会基盤部門 准教授	
やまだ やすし 山田 寧	国土交通省 関東地方整備局 大宮国道事務所 副所長	
しばさき しんいち 柴崎 進一	埼玉県 県土整備部 県土整備政策課 副課長	
たていし かずひろ 立石 一弘	さいたま市 建設局 土木部 道路計画課 参事兼課長	
とまる おさむ 外丸 修	さいたま市 建設局 土木部 広域道路推進室 室長	
きのした あつし 木下 篤	東日本高速道路(株) 関東支社 総合企画部 総合企画課 課長	オブザーバー
たなか あつし 田中 厚	首都高速道路(株) 計画・環境部 都市環境創造課 担当課長	オブザーバー

(事務局) 関東地方整備局 大宮国道事務所 計画課
埼玉県 県土整備部 県土整備政策課
さいたま市 建設局 土木部 広域道路推進室

4. 核都市広域幹線道路(埼玉新都心線～東北道付近)検討会の実施状況

- 埼玉県南部における慢性的な混雑を改善し、物流施設の立地や人口集積が進む圏央道と外環道間の東西方向の連携を強化する観点から、令和4年度から核都市広域幹線道路(埼玉新都心線～東北道間)の概略計画の検討を開始。
- 第1回地元検討会では、計画検討の進め方と核都市広域幹線道路(埼玉新都心線～東北道付近)の課題等について議論。



5. 核都市広域幹線道路(埼玉新都心線～東北道付近)周辺地域の課題①

6

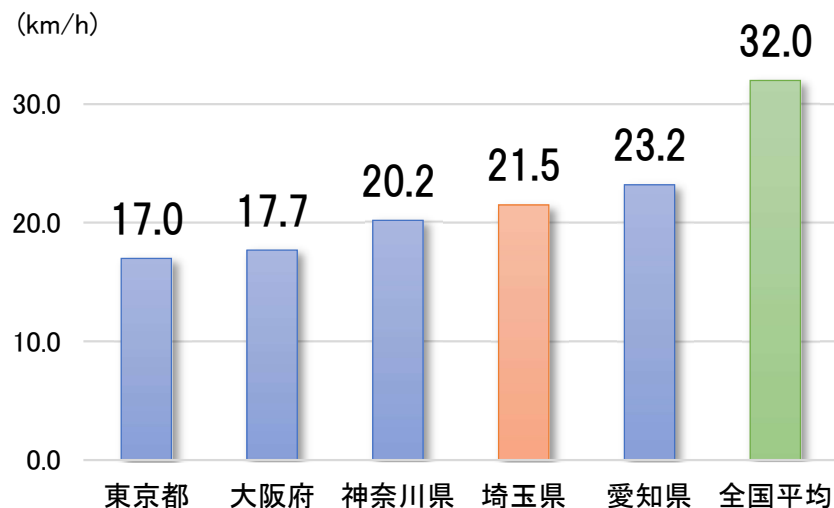
(渋滞)

- 埼玉県は混雑時旅行速度が全国ワース4位です。
- 外環道(千葉県区間)の開通により、外環道(埼玉県区間)の渋滞損失時間は約3.4倍になっています。

(事故)

- 埼玉新都心線～東北道付近の死傷事故率は、約132.7件/億台キロで県平均の約1.6倍です。

■都道府県別混雑時旅行速度



出典: 平成27年度全国道路・街路交通情勢調査

■渋滞損失時間の変化(自動車専用道路)

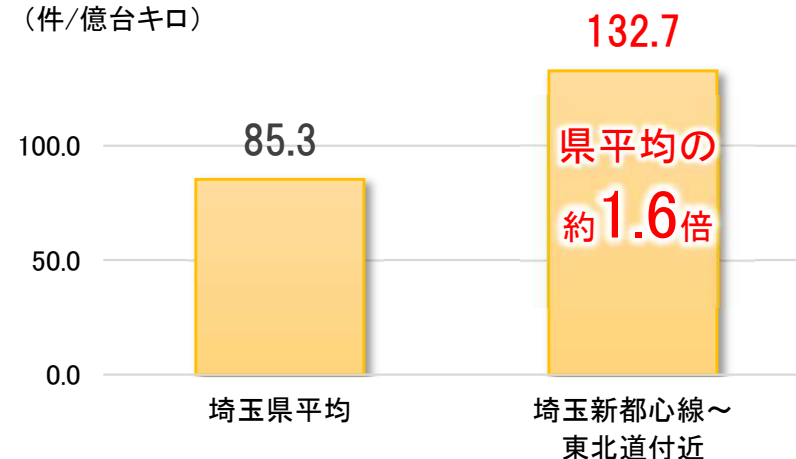
地域	外環開通前 (平成30年)	開通1年後 (令和元年)	開通2年後 (令和2年)	開通3年後 (令和3年)
外環道	4.4 万人時間/年km	15.1 万人時間/年km (平均の2.5倍)	8.8 万人時間/年km (平均の1.5倍)	13.6 万人時間/年km (平均の1.7倍)
埼玉県平均	4.6 万人時間/年km	6.1 万人時間/年km	5.8 万人時間/年km	8.0 万人時間/年km

出典: 平成27年度全国道路・街路交通情勢調査、ETC2.0プローブ

■死傷事故率



(件/億台キロ)



出典: イタルダデータ(センサス区間別データ)
※政令市の一般市道以上を対象に集計

5. 核都市広域幹線道路(埼玉新都心線～東北道付近)周辺地域の課題②

7

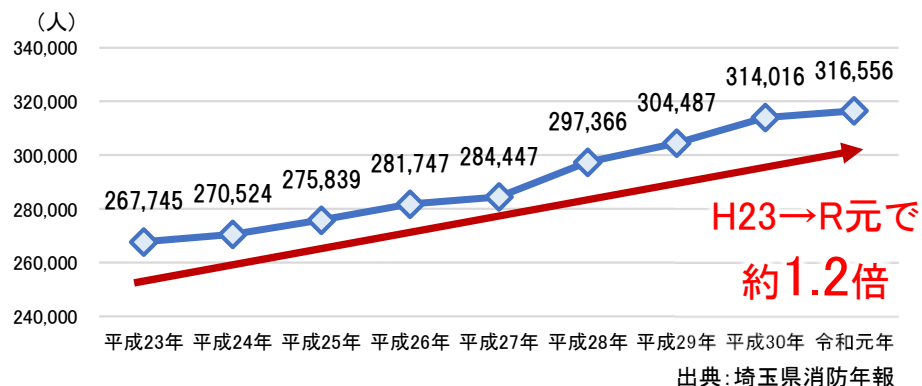
(医療連携)

- 埼玉県の救急搬送人員は、平成23年から令和元年にかけて約1.2倍に増加しています。
- さいたま市岩槻区や緑区の一部等では、第三次救急医療施設への救急搬送に時間を要しています。

(災害)

- 近年、埼玉県では風水害に見舞われおり、さいたま市内でも大規模な被害が発生しています。
- 防災拠点が集積するさいたま市中心部と南北方向に縦貫する第一次緊急輸送道路を結ぶ東西方向のネットワークが脆弱です。

■埼玉県の救急搬送人員の推移



■近年の埼玉県での被災状況

- 令和元年東日本台風
 - ・県内気象台14箇所のうち11箇所で既往最大の降雨を記録
 - ・さいたま市内の被災: 全壊(2件) 半壊(2件) 床上浸水(968件) 床下浸水(392件)
- 平成29年台風21号
- 平成28年台風9号
- 平成27年関東・東北豪雨
- 平成26年台風18号

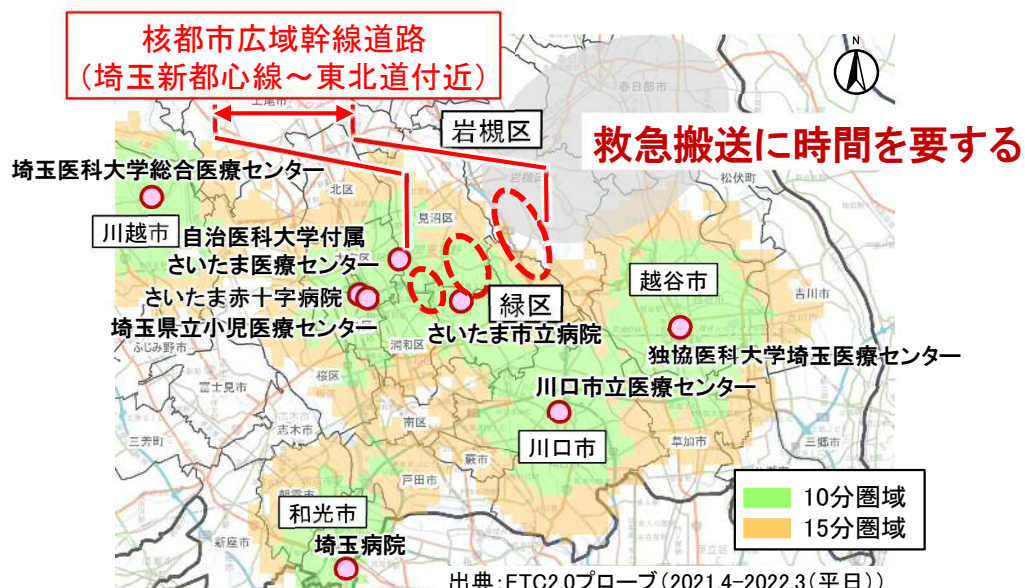


平成26年台風18号による冠水

出典: さいたま市資料

■緊急輸送道路及び防災拠点

■さいたま市周辺の第三次救急医療施設と到達圏域



5. 核都市広域幹線道路(埼玉新都心線～東北道付近)周辺地域の課題③

8

(企業進出、人口増加)

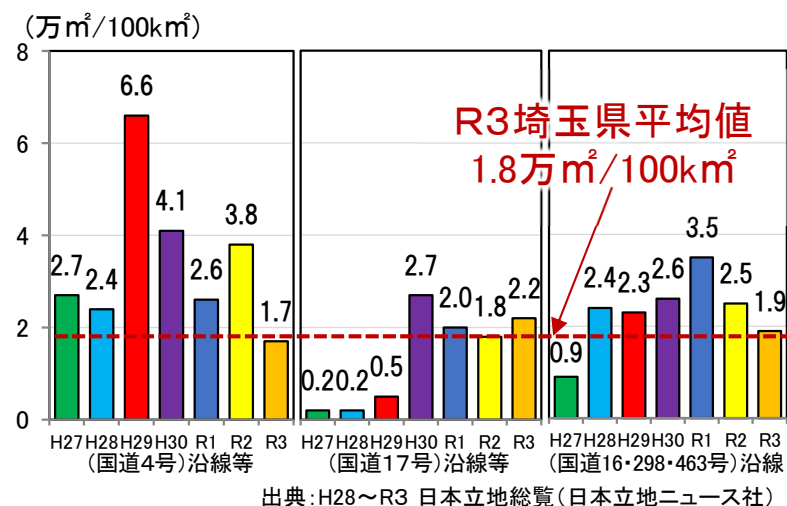
- 物流施設の新規立地は、近年、国道17号沿線や国道16・298・463号沿線で県平均を上回っています。
- 各路線沿線では、人口密度が増加しています。

(観光)

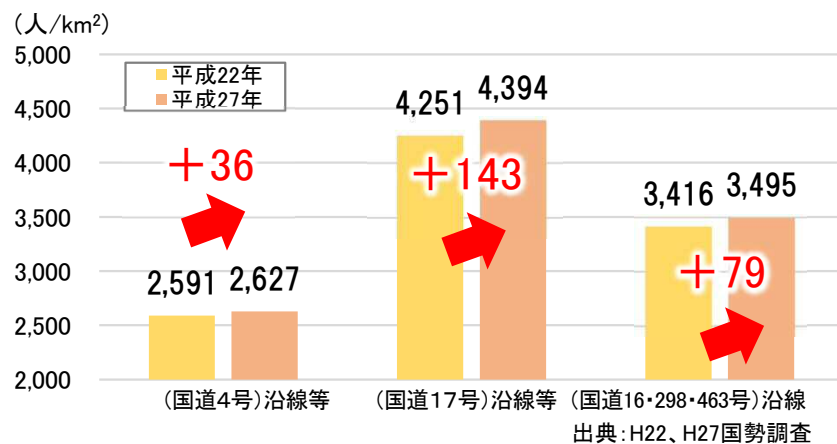
- さいたま市内の国道17号沿線付近には、主要な集客施設が集中するエリア※が存在します。
- 東北道岩槻ICから当該エリアへのルート上は、イベント時は顕著に速度低下が発生しています。

※主要な集客施設が集中するエリア:さいたま市大宮区、中央区、浦和区

■平成27年以降の新規企業立地計画の推移



■沿線における人口動向



■主要な集客施設



■岩槻IC～主要な集客施設が集中するエリアの平均旅行速度



出典: ETC2.0プローブ(2021.4～2022.3)
イベント日: さいたまスーパーアリーナでのイベント開催日(岩槻IC～国道16号～県道2号～国道17号交差点)

5. 核都市広域幹線道路(埼玉新都心線～東北道付近)周辺地域の課題④

9

(生活環境)

○見沼たんぼ周辺の生活道路は、通勤・通学時間帯等に抜け道として利用されています。

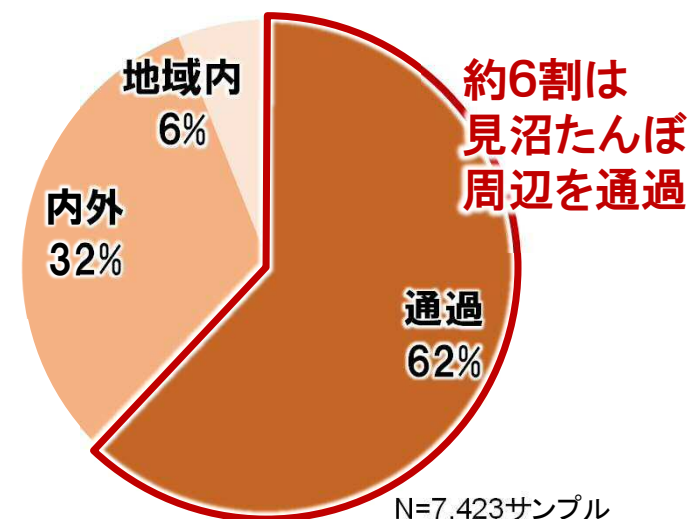
○抜け道を利用する交通のうち、約6割は見沼たんぼ周辺を通過し、生活交通(地域内・内外)との錯綜が生じています。

■見沼たんぼ周辺の生活道路の交通状況



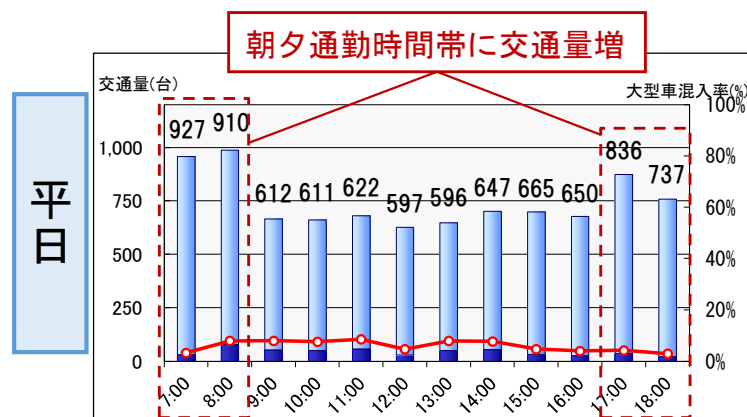
出典:ETC2.0プローブ(2021.6(平日))

■見沼たんぼ周辺の生活道路の利用交通内訳

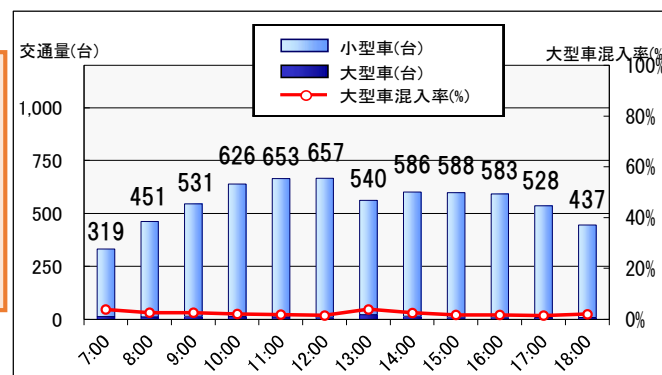


出典:ETC2.0プローブ(2021.6(平日))
 ※見沼たんぼ周辺:県道1号～県道105号

■見沼たんぼ抜け道の交通量



休日



出典:交通量調査結果(平日:R4.6.14(火)、休日:R4.6.12(日))

■見沼たんぼ周辺道路の交通状況



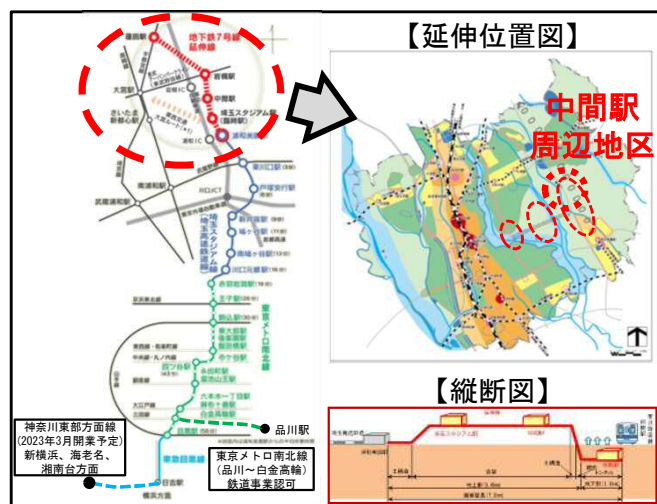
(地下鉄7号線の延伸計画)

- 地下鉄7号線は、先行して浦和美園駅～岩槻駅まで将来的には蓮田駅までの延伸が計画されています。
- 道路網や公共交通網の発達など、さいたま市域のさらなる利便性向上により、地域開発や人口定住の促進が想定されます。

(交通拠点の機能強化に関する整備方針の検討)

- 大宮駅周辺地域は幹線道路や高規格幹線道路へのアクセスが容易で「道路交通の要衝」です。
- 大宮駅西口では、大宮駅周辺の交通結節機能の強化などに向けた事業計画の具体化を図ることを目的として整備方針を検討中です。

■地下鉄7号線の整備計画



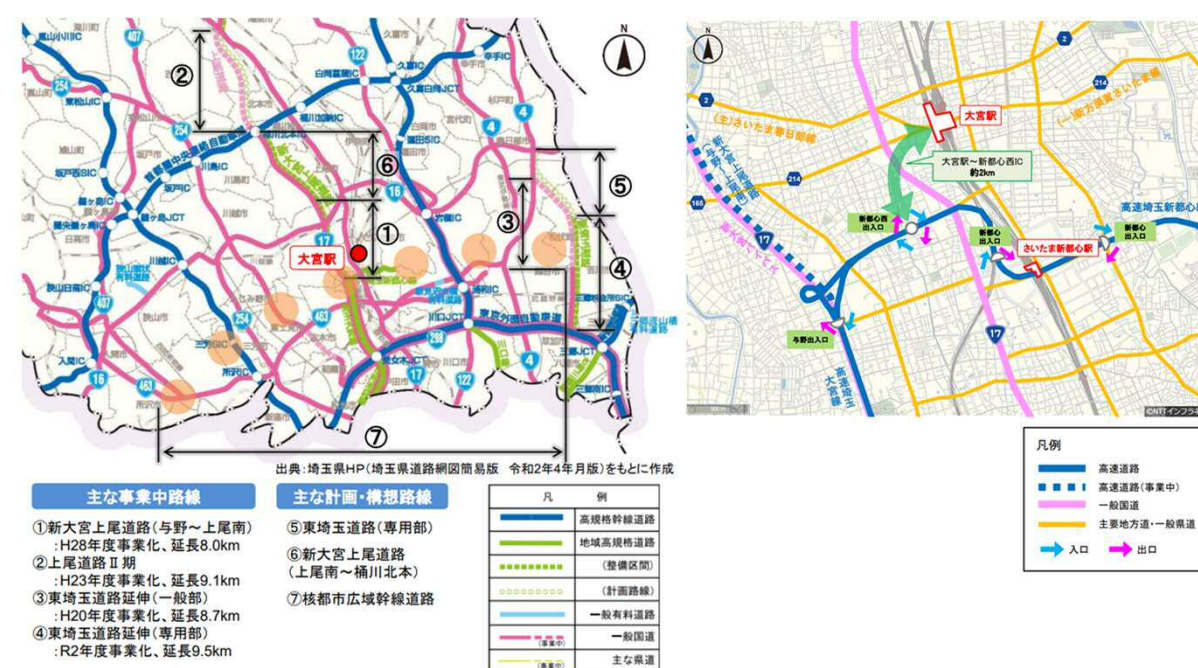
出典:さいたま市資料

■中間駅のまちづくり



出典:さいたま市資料

■大宮駅周辺の主な道路網と道路事業 (埼玉県)



■高速バス乗降り環境



■大宮駅とのアクセスが不便



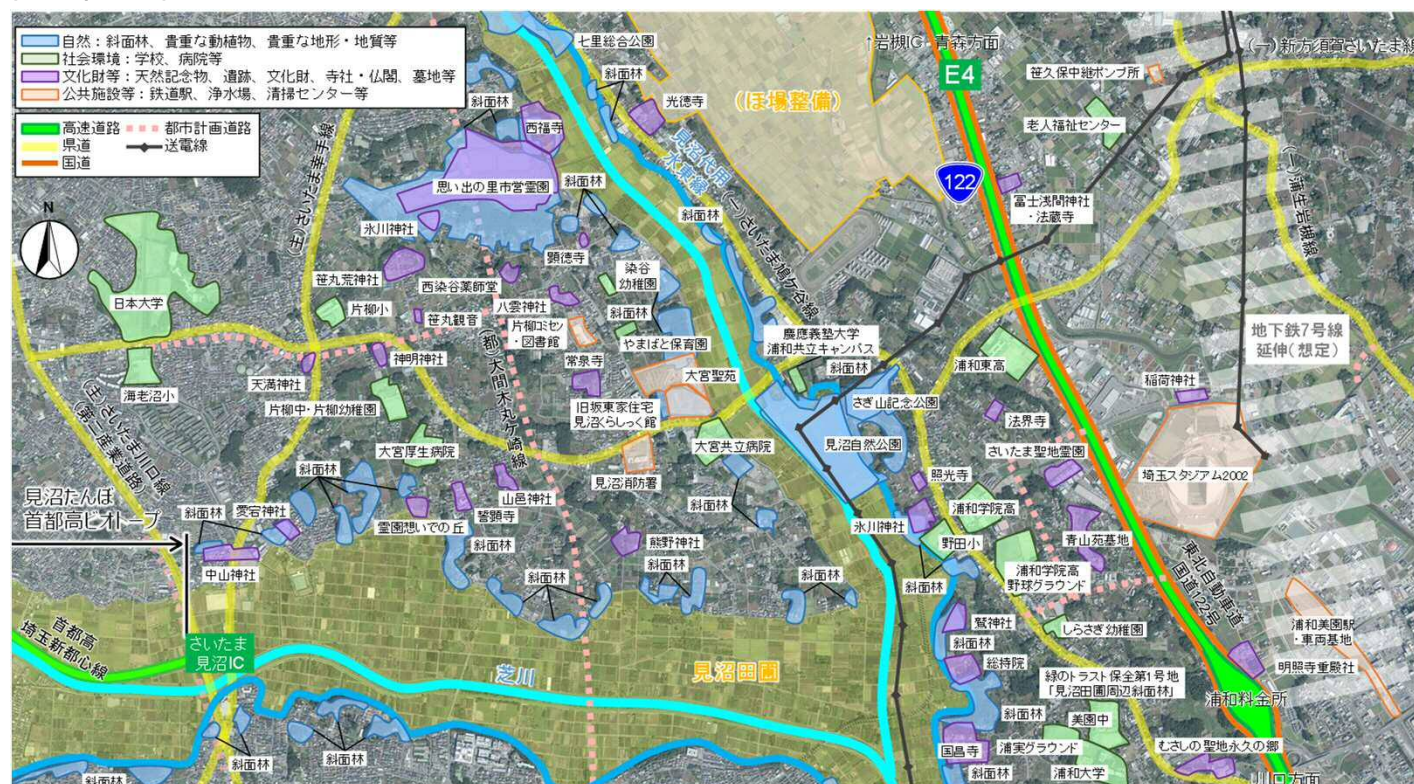
5. 核都市広域幹線道路(埼玉新都心線～東北道付近)周辺地域の課題⑥

11

○埼玉新都心線～東北道付近では、見沼たんぼ、斜面林、見沼自然公園、さぎ山記念公園、緑のトラスト保全第1号地などが点在しています。

○見沼代用水東縁や見沼くらしっく館など、見沼たんぼの文化資源や文教施設や病院等が点在しています。

■ 埼玉新都心線～東北道付近の土地利用



- 見沼たんぼは、さいたま市、川口市の2市にまたがる面積約1,260haの大規模な緑地空間です。
- 道路整備計画を検討する際は、これらの自然環境の保全・創造に配慮する必要があります。

見沼たんぼの歴史

- 1629年 農業用水をためるための八丁堤が築造され灌漑用水池(見沼溜井)が完成
- 1727年 見沼溜井の干拓から見沼たんぼが誕生。利根川から用水を引き込む見沼代用水を整備
- 1958年 台風22号で大規模な水害が発生。見沼たんぼの遊水機能により、下流域の被害を抑える役割を果たした。
- 1965年 見沼たんぼは、治水上の観点から開発抑制を求める動きがあり見沼たんぼの宅地化を原則認めない「見沼三原則」を制定。
- 1990年 埼玉県が緑のトラスト保全第1号地「見沼たんぼ周辺斜面林」の土地を取得し、保全を開始。
- 1995年 「見沼田圃(たんぼ)の保全・活用・創造の基本方針」策定
- 1998年 「公有地化推進事業」の開始
- 2003年 「見沼新時代へー見沼たんぼの将来像とセントラルパーク基本構想に関する提言」策定
- 2011年 「さいたま市見沼基本計画」策定
- 2012年 「さいたま市見沼基本計画」の着実な実施に向け「見沼田圃(たんぼ)基本計画アクションプラン」を策定
- 2016年 「見沼・さぎ山交流ひろば 運営協議会」設立

見沼たんぼの観光資源



出典:「見沼たんぼ全域マップ」さいたま市

これからの見沼 ～見沼新時代～

人と自然の共生、都市と自然の共存という新たな段階の時代へ農業生産の場を維持しつつ、市民共有の環境資産として認識する時代、すなわち「見沼新時代」です。

斜面林の保全活動



見沼・さぎ山交流ひろば

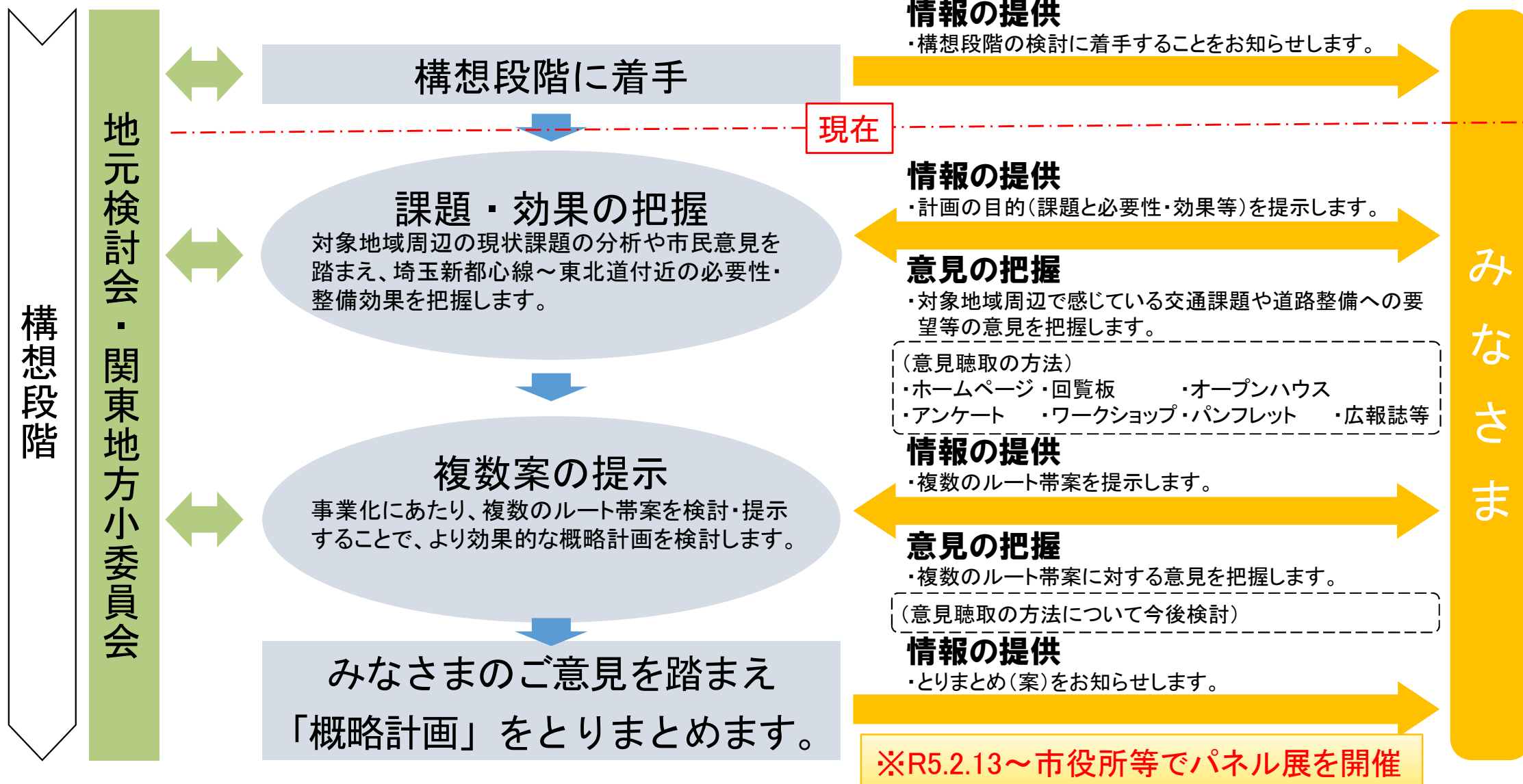


出典:さいたま市資料

6. 核都市広域幹線道路(埼玉新都心線～東北道付近)今後の進め方

13

- 核都市広域幹線道路(埼玉新都心線～東北道付近)の必要性・整備効果について、対象地域周辺の地域特性、交通課題等を沿線地域住民等に情報提供するとともに、対象地域で感じている交通課題や道路整備への要望等を把握する。
- 沿線地域住民等への意見聴取を実施する際には、見沼田圃を始め生活環境、自然環境、歴史・文化資源等に考慮し、ホームページや、オープンハウス、ワークショップ等、様々な方法を活用して丁寧に情報を把握する。



7. パネル展の開催状況

14

○令和5年2月13日(月)より、さいたま市区役所や道の駅等、計17の施設で順次パネル展を開催。

■パネル展開催状況 (R5. 2. 13～)

